

保育内容表現の授業実践と考察2

音楽的・身体的表現の創作と「保育の表現技術」について

Class practice of the childcare contents expression and the consideration No.2
The creation of musical /physical expression and the expression technology of childcare

飯泉祐美子(帝京科学大学)

Yumiko IIZUMI (Teikyo University of Science)

(キーワード)

表現の創作、音楽的表現、身体的表現、保育の技術

1. 本研究の目的

本研究は以下の二つの要因による課題解決が目的である。一つ目の要因は、平成31年度より実施される幼稚園教諭新教職課程において「教科に関する科目」「音楽」が変更され「領域及び保育内容の指導法に関する科目」として「領域に関する専門的事項」の「幼児の表現」、「保育内容の指導法」の「保育内容表現」として、「教科」ではなく、「領域」として位置づけられることとなった事である。二つ目の要因は、保育士養成課程等検討会より保育所保育指針において、幼児教育を行う施設として共有すべき事項として、新たに「育みたい資質、能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」などが示されたこと等を踏まえた、保育の内容に関する教科目（の内容充実、「保育の計画と評価」に関する教科目の検討が論点となり、現段階の対応案として教科目名の変更「保育の表現技術」→「保育内容の指導法」とされ、更にそれは幼稚園教職課程との関係に留意が必要と付け加えられたことである。

このことは、幼稚園教諭や保育士として「子ども」に重きをおいた「音楽」や「表現」について学びを深めたとしても、「子ども」と「表現」するための「ツール」（技術的な側面）の学びは浅くなりすぎてしまう懸念があるのではないか。

そこで、保育内容表現の授業内でどこまで保育の

表現技術を深めることができるのか。その可能性を探ることを、目的とした。

2. 対象授業について（保育内容表現）

(1) シラバス概要

シラバスの概要は次の通りである。（一部省略）

（目的）

- ・ 幼児の表現について理解する。領域「表現」について理解する。
- ・ 思考のともなった創造的な表現を目指す。（到達目標）
- ・ 幼児の表現について理解する視点を獲得
- ・ 幼児の表現活動やその実現のために思考・判断しながら、必要な知識や技術を獲得する。
- ・ こどもの表現について、総合的に判断対応できるようにする。

《第1回～第5回》

表現に関する考え方など知識理解の側面を学ぶ。演習は以下のものを中心に行う。

手遊び 身体遊び グループによる即興表現
グループによる即興創作 即興発表

毎時、活動の中で偶然出会ったメンバーで表現活動を行う。

《第6回～第13回》

表現発表会に向けての取り組み

《第14回》

発表会（近隣保育園を招待）

《第15回》

振り返りとまとめ

※第6回から第15回までが本発表の研究対象

(2)他の保育内容演習との関連

絵本選定、台本作り、配役決め、大道具・小道具の制作などは他の演習授業「保育内容人間関係」「保育内容環境」の授業にて取り扱う。

3. 授業実践

(1)活動の前提

教員は本授業のねらいと最終到達目標の提示、創作企画チームについての概要は指示するが、その他は「オブザーバー」という姿勢を基本とした。

表現の内容は、既存の作品の劇的表現と、音楽的・身体的表現の創作をし、構成員全員が演じ、創作表現企画を行う。(ひとり二役)

創作表現は以下の創作表現とする。

- ・音楽表現創作
- ・音楽的身体的表現創作
- ・音環境創作

4. 創作作品の質的研究一

(1) 創作表現作品の紹介（表現は発表映像視聴）

- ・金のがちょう
- ・おむすびころりん
- ・3匹やぎのがらがらどん

(2) 創作企画の紹介（創作楽譜・振り台本・音台本）

—音楽的表現—

《金のがちょう》

- ・トンちゃんの登場の音楽
- ・くっついちゃった
- 《おむすびころりん》
- ・おむすびころりんすっとなん
- ・ねずみの家での音楽
- ・おむすびころりんのダンス

《3匹やぎのがらがらどん》

がらがらどん登場 トロル登場 バトルシーン
がらがらどん勝利 エンディング

—身体的表現—

《金のがちょう》

くっついちゃった

《おむすびころりん》

おむすびころりんのダンス

《3匹やぎのがらがらどん》

がらがらどん登場 トロル登場 バトルシーン
がらがらどん勝利 エンディング

—音環境表現—

《金のがちょう》

木を切る音 くつつく音 お金の音 魔法の音

《おむすびころりん》

おむすびが転がる音 おじいさんが穴に落ちる音

《3匹やぎのがらがらどん》

小さいがらがらどんが橋を渡る音

二番目やぎのがらがらどんが橋を渡る音

大きいやぎのがらがらどんが橋を渡る音

5. 考察

「この授業の振り返り、いつの間にかできるようになっていたこと」と学生に記述をさせたところ以下のような記述があった。

- ・ピアノを弾きうたうこと
- ・楽譜を書くこと
- ・楽譜と音のリンク（楽譜と同じ実際の音が出せる）
- ・楽譜から演奏すること
- ・メロディの創作
- ・子どもが可能な身体表現を創作する
- ・物音に敏感になっていた
- ・頭を使って常に主体的に考える
- ・学び合い

これらの事から教科目「保育の表現技術」の名称が変更されその内容が危ぶまれる中「保育内容表現」でその目的を実現しながらも一定の成果を見ることができた。引き続き研究を深め進めたい。